

平成27年9月18日

関係各位

提 案 書

余川自治振興委員協議会  
明るい村づくり推進協議会  
会長 猶明孝信

余川地区の活性化及び旧余川小学校の有効利用について

1. はじめに

余川地区は、氷見市の中心に位置し東西約3.2km、余川川を中心に北川、南側に集落があり、どこにでもあるような田園風景です。

しかしながら高齢化と過疎化が年々進み5～6年後には、現在238戸が225戸程度になると思われる。

表題のとおり、余川地区の良い所を見てもらいながら、他の地区との交流を深め、少しでも地区の住民が生きがいと活力に満ちた地区にしたい。近々中に、ぶどう園・花公園（氷見フォレストプロールガーデン）が完成近いのにあわせ、「ぶらり道草散歩みち」（仮称）なるルートを整備しながら元気が出る地域を目指したい。

2. 過去と現在の状況について

- (1) 統合前は、学校を中心に住民運動会、授業参観及びPTA活動など子供と父兄、そして住民がいろいろな集まりでコミュニケーションがとれた。  
しかし現在はコミュニケーションのチャンスがしだいに薄れ地区全体が今一步、活力がないように感じる。
- (2) 現在は、公民館活動として、絵手紙、陶芸教室、どてかぼちゃ大会及びそば打ち大会など住民のふれあいの場を企画しているが、集まりが少ない。  
その他、敬老会、余川ふれあいフェスタ、ビーチボール大会、ペタンク大会など各種団体が企画し、地域住民の憩いの場としている。  
これから活動を近隣の人達を巻き込んだ活動に発展させ、活発に交流を深めていくことで、もっと元気が出る地区になると思われる。
- (3) 今後の方向
  - a 旧余川小学校の有効利用について（別紙参照）
    - (a) 地区で採れた新鮮野菜の販売
    - (b) 特徴ある漬物の開発と販売



(c) 田舎料理教室の開設

(d) 美味しい余川米の精米と販売

(e) 稲積梅を使った商品開発と販売

このような企画を成功させるため、場所づくり、物づくり、人づくり、そして販売づくりが必要であり、よき指導者が求められる。

b 旧小学校を基点とした「ぶらり道草散歩みち」；別紙参照

旧小学校——古寺の桜——じんけ谷内（とんぼの池、蛍の里）——興聖寺（仏像）——大谷池（ｶｽﾞｰ教室）——五柱社（大杉）——小学校へ戻る。（約 3.8km）

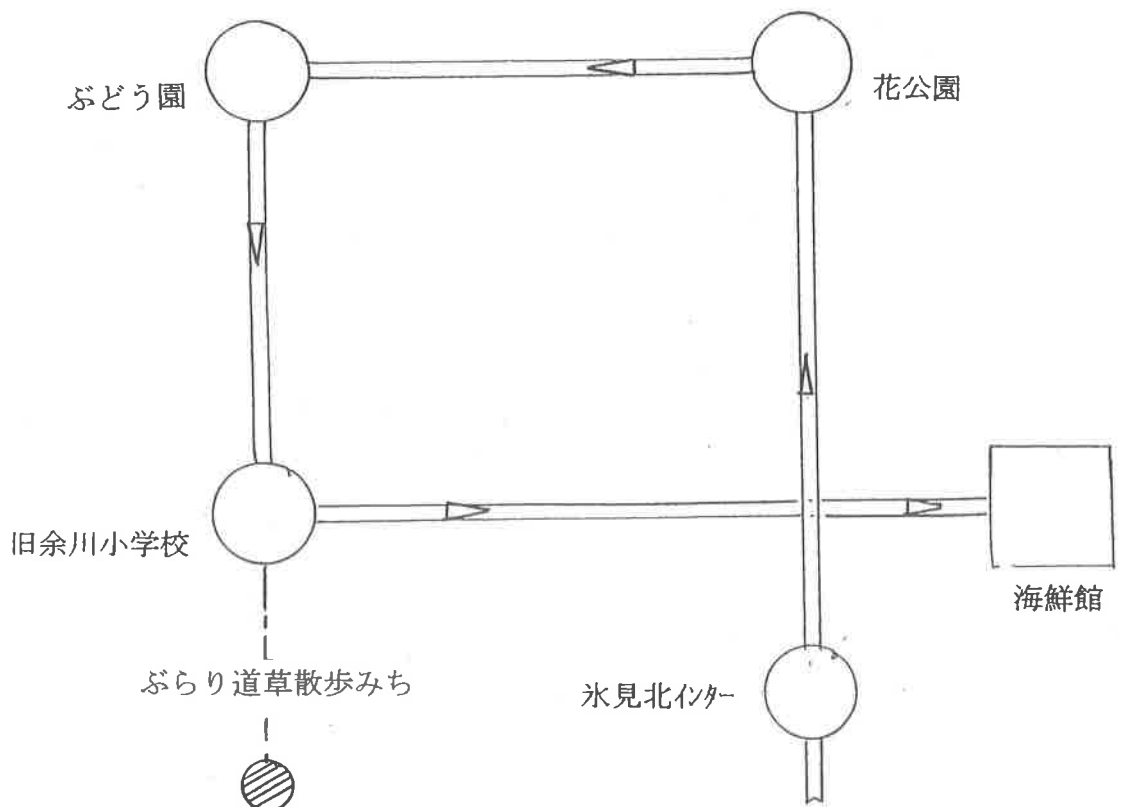
（注）健脚の人は、余川で一番見晴らしのよい、ぶどう園まで行かれるとよい。；学校から約 35 分

(a) じんけ谷内の整備（ため池、用水の清掃、整備が必要）。

(b) 大谷池で「ｶｽﾞｰ遊び」ができるように整備が必要。

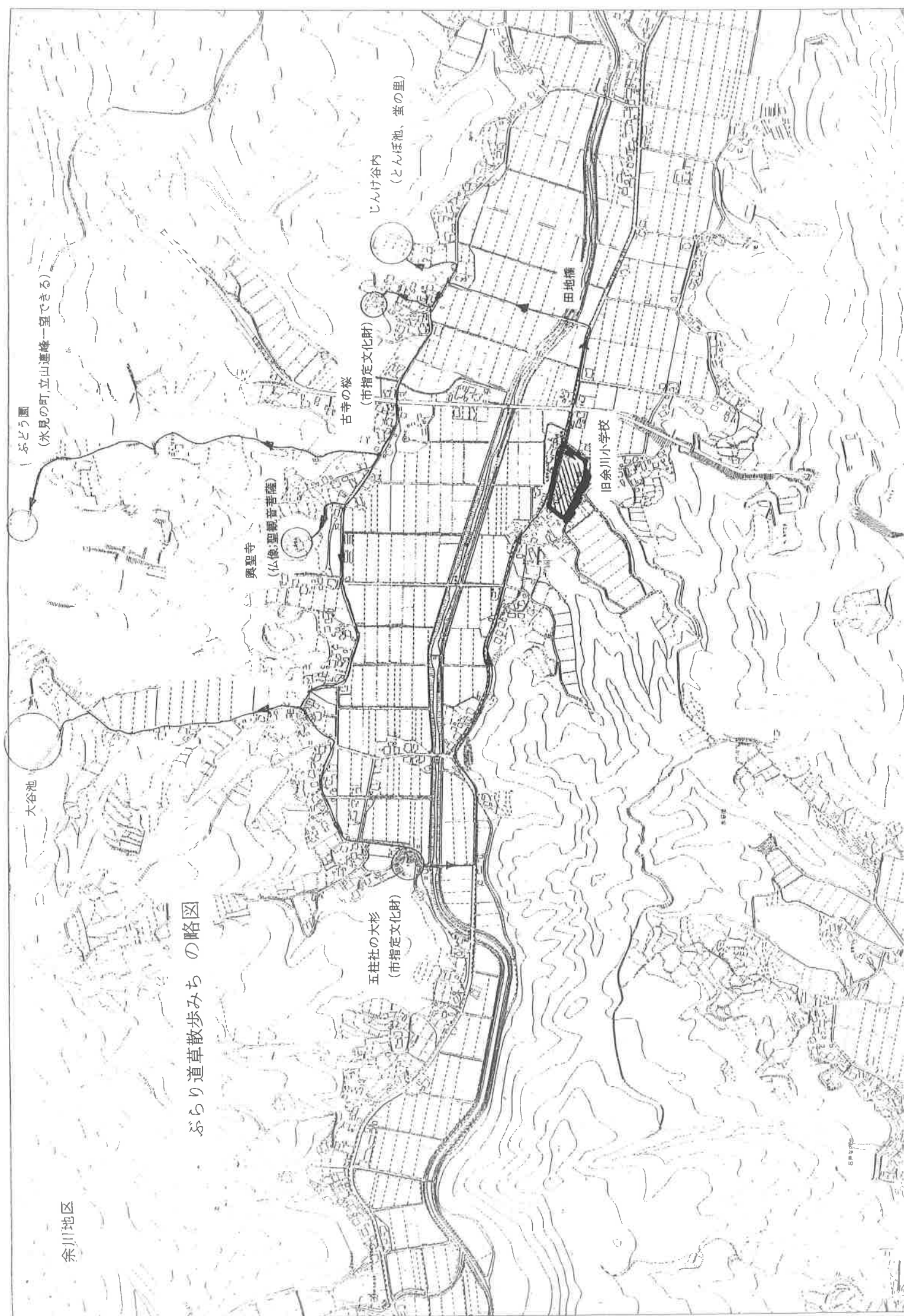
c 氷見以外の人々との交流について

東海北陸道、能越道氷見インターの開通により中部圏より人々きて、ちよと寄り道していける、豊かな田園風景を楽しむ場所を提供していきたい。



余川地区

ぶらり道草散歩みちの略図



ぶどう園

(水見の町, 立山連峰一望できる)

大谷池

興聖寺

(仏像:聖観音菩薩)

五柱社の大杉  
(市指定文化財)

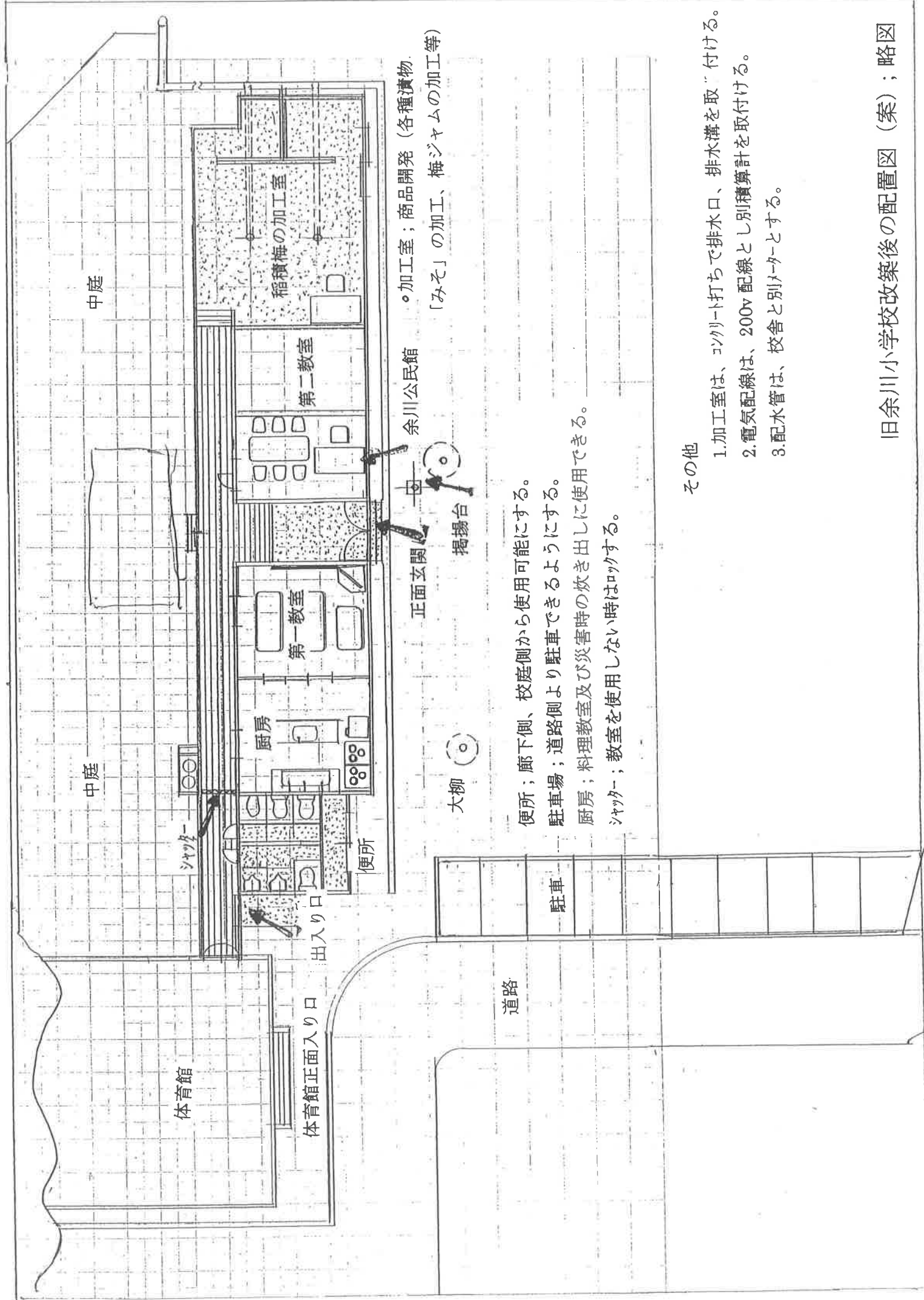
古寺の桜

(市指定文化財)

じんげ谷内  
(とんぼ池、蜚の里)

田地橋

旧余川小学校



便所; 廊下側、校庭側から使用可能にする。  
 駐車場; 道路側より駐車できるようにする。  
 厨房; 料理教室及び災害時の炊き出しに使用できる。  
 シャワールーム; 教室を使用しない時はロックする。

その他

- 1.加工室は、コンクリート打ちで排水口、排水溝を取付ける。
- 2.電気配線は、200V配線とし別種算計を取付ける。
- 3.配水管は、校舎と別メーカーとする。

経営規模	前期(平成26年3月1日～平成27年2月28日)
	稲積梅生産量 20,000kg
事業内容	梅干漬込 9,600kg
	青梅販売 10,400kg
	売上高 21,989千円
	経常利益 1,544千円

### 3 取組計画の概要

#### (1) 企画・設計・開発に関する計画

長寿・健康志向が強まる消費者のニーズに対応するため、薬都富山県ならではのイメージを生かした「減塩やくぜん梅干し」(仮称)を富山県食品研究所と連携して共同開発を行う。特に全国の梅干しの主産地である和歌山県や福井県などとの違いを明確にしたこだわりの新商品開発を行う。



氷見稲積梅の梅干し(既存商品)

具体的には、富山県の固有種である「氷見稲積梅」を使用し、白干し梅干しを脱塩し、梅干しの命ともいえるクエン酸やミネラルを出来るだけ逃さない工夫を行うため、脱塩には海洋深層水を用いる。

調味液には、霊芝や蜂蜜をブレンドして薬都富山ならではのイメージを生かす。

#### (2) 生産に関する計画

現在、既存の梅干し生産に使用する「氷見稲積梅」は4,800kgで販売額は9,600千円であるが、新たな商品となる「減塩やくぜん梅干し」(仮称)に使用する稲積梅は、事業実施4年後の平成31年度で2,500kg、販売額は10,000千円とする計画である。



梅ロードでの収穫作業

当面「減塩やくぜん梅干し」(仮称)は現加工場で生産・加工し、生産体制が確立された後、氷見市内の学校等の遊休施設を借用し生産・販売のステップアップを図るとともに、氷見市と連携して、新たに若者を雇用し地域創生の起爆剤としたい。

#### (3) 加工に関する計画

従来の梅干しの製造方法は、収穫後に選別と洗浄を行い、塩により5日間前後下漬けを行い、洗浄し塩もみで灰汁を抜いた赤シソを加え再度1か月間程度寝かす。その後風通しの良い晴天が続く日に3日間程度天日干し行う。既存商品の塩分濃度は約12%程度(富山県食品研究所調べ)である。



減塩やくぜん梅干し(イメージ)

これに対し、新たな商品となる「減塩やくぜん梅干し」(仮称)については、収穫後に選別と洗浄を行った稲積梅を塩で漬込んだものを天日干し(白干し梅干し)を行った後(塩分濃度約23~24%)、ひと晩海洋深層水に漬込み脱

塩作業を行う。水切りを行って下処理ができた梅干し（塩分濃度約 12%）を漢方にも用いられる霊芝や蜂蜜をブレンドした調味液に 3~4 日程度漬込んだ後、再度水切りし、クエン酸やミネラルを豊富に含んだ製品塩分濃度が約 5~6%程度の体にやさしい「減塩やくぜん梅干し」（仮称）を商品化する。

なお、五訂増補食品成分表 2010 によると、梅干しの調味漬けの食塩相当量は 7.6% であるが、平成 27 年 4 月に施行された食品表示法では、栄養強調表示において、ナトリウムの低減が 25%以上の相対差が必要とされていることから、塩分濃度が 5.7%以下となるような商品の開発を目指す。

(4) 販売・サービスに関する計画

消費者の健康に配慮した「減塩やくぜん梅干し」（仮称）とした商品イメージを前面に打ち出して、当社直売所はもとより、弊社のホームページでの新商品の PR、インターネット通販及び氷見市内のインショップを通じて販路拡大につなげていきたい。

また富山県から東京などの大都市に移住した住民をターゲットとしたふるさと納税品目に加えるなど、「氷見稲積梅」ファン層の拡大を図る。



稲積梅セット（既存）

(5) 医福食農連携に関する計画（※ 医福食農連携により、健康や福祉の増進につながる商品・サービスの開発に取り組む場合のみ記載）

近年は、高血圧等生活習慣病の予防意識の高まりのなか、減塩による食生活が推進されており、現在取引を行う卸業者からも健康志向の高まりのニーズに即した新たな商品開発の要請が寄せられている。また、実際のスーパーマーケット等で販売されている商品についても消費者の健康志向を反映し、従来の商品と比較して減塩や調味漬けの梅干しが販売されている。

こうしたことから、弊社では富山県氷見市の固有種である「氷見稲積梅」を原料に富山県の海洋深層水を組み合わせ、薬都富山県の特長を生かすため、調味液に霊芝や蜂蜜をブレンドした「減塩やくぜん梅干し」（仮称）の新商品開発と販路拡大を図りたい。

(6) 魅力向上に関する計画（※ 地域の農や食の魅力向上・発信に向けた商品・サービスの開発に取り組む場合のみ記載）

該当なし

4 売上高の目標・実績

年次	区分	売上げの目標・実績
前年 (平成26年度)	経営全体	21,900千円(うち梅干9,600千円)
	新たな部門 (部門名:減塩やくぜん梅干)	—
事業実施年 (平成27年度)	経営全体	売上高24,000千円
	新たな部門	稲積梅:2,000kg 新商品:1,000kg 売上高 2,000千円

1年目 (平成28年度)	経営全体	売上高28,000千円	
	新たな部門	稲積梅:4,000kg 新商品:2,000kg	売上高 4,000千円
2年目 (平成29年度)	経営全体	売上高30,500千円	
	新たな部門	稲積梅:5,000kg 新商品:2,500kg	売上高 5,000千円
3年目 (平成30年度)	経営全体	売上高35,000千円	
	新たな部門	稲積梅:7,000kg 新商品:3,500kg	売上高 7,000千円
4年目 (平成31年度)	経営全体	売上高40,000千円	
	新たな部門	稲積梅:10,000kg 新商品:5,000kg	売上高10,000千円

## 5 事業費

### (1) 経費負担区分

年次	事業費 (A+B+C)	負担区分			補助率 (A/A+B+C)
		県補助金 (A)	市町村 補助金 (B)	その他 (C)	
平成27年度	円 1,274,850	円 637,000	円 0	円 637,850	% 49.9
※ 平成28年度	100,000			100,000	
計	1,374,850	637,000	0	737,850	46.3

※ 「医福食農連携」による商品・サービスの開発又は「魅力向上」に向けた商品・サービスの開発に取り組む場合は、2年度にわたる事業実施が可能です。これにより、2年度にわたり事業を実施する場合も、2年目の事業の実施にあたっては、改めて、事業実施計画書を知事に提出し、承認を受ける必要があります。

### (2) 項目別事業費等

区分	予定時期	内容及び事業量	事業費(円)	積算根拠
※ <sup>1</sup> 「医福食農連携」に 要する経費 研究・開発に要す る経費	H27.8~9	成分分析 調味原液 漢方エキス 蜂蜜	64,400	別紙
試作に要する経費	H27.8~11	青梅 海洋深層水 ステンレステーブル 容器	162,000	別紙

加工機材の整備に要する経費	H27. 8～11	漬込みタンク一式 セイロ 3相マグネット循環ポンプ サンブレードホース 調味液 漢方エキス 海洋深層水 蜂蜜	913,450	別紙
その他	H27. 11	ラベル製作費	135,000	別紙
※ <sup>2</sup> 「魅力向上」に向けた取組みに要する経費				

※<sup>1</sup> 「医福食農連携」による商品・サービスの開発に取り組む場合のみ記載

※<sup>2</sup> 「魅力向上」に向けた商品・サービスの開発に取り組む場合のみ記載

6 事業完了予定年月日  
平成28年3月31日

7 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	備 考
県補助金	637,000	0	
市町村補助金 ※	0	0	
自己資金	637,850	0	
その他	0	0	
計	1,274,850	0	

※「魅力向上」に取り組む場合は、当該事業に対する市町村の補助額（予定を含む）を確認できる書類を添付すること。

(2) 支出の部

(単位：円)

区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	備 考
6次産業化とやまの 魅力発信事業費	1,274,850	0	
内 訳			
補助対象経費	64,400	0	研究・開発に要する経費
	162,000		試作に要する経費
	913,450		加工機材の整備に要する経費
	135,000		その他



	補助対象外経費			
--	---------	--	--	--

8 添付資料

計画に関する資料（導入する機械のカatalog等）を適宜添付する。

# ふる里創生事業計画(案)

目的	地元産品(稻積梅)を使った特産品をつくり雇用の創出と地域の活性化を図る
----	-------------------------------------

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県を代表する食品開発 (地域特性が絞り込まれ全国に打って出れる食品)</li> <li>・初年度2,000kg 売上400万円</li> <li>・4年目5,000kg 売上1,000万円</li> </ul>
----	---

目標要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施可能な事業計画が策定されていること</li> <li>・時代のニーズに合ったマーケティングに徹した食品であること</li> <li>・人材の確保が出来ること。(JA婦人部+稻積梅(株))</li> <li>・加工設備があること(余川ふれあい館の加工場)</li> <li>・資金力があること</li> <li>・量産化の用途がつき将来の発展が予知出来ること</li> <li>・販路が確保されていること</li> </ul>
------	--

具体的展開	<p>地域の農や食の魅力向上、発信に向けた商品、サービス開発(補助事業確定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稻積梅干(調味梅干)の商品開発『漢方長寿梅干』の完成、構想から2年を要し富山県食品研究所と共同開発</li> <li>・二の矢としておし梅を開発中(郷土豊かな梅羊かんのようなもの)</li> <li>・機械設備、137万発注済</li> <li>・人材の教育⇒加工体制の確立、JA婦人部+若い人(有志)</li> <li>・販路と整合             <ul style="list-style-type: none"> <li>流通チャンネル(卸、問屋)</li> <li>直売、インショップ</li> <li>インターネット立上げ</li> </ul> </li> <li>富山県アンテナショップ(日本橋)、とやマルシェ、富山いきいき物産デザインの決定</li> <li>・価格の決定</li> <li>・三相電源の導入、看板の設置</li> <li>・地域おこし協力隊の協力を得る</li> </ul>
-------	---

狙いとする効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地にもない富山の特性を生かした調味梅干の発信によるふる里の活性化と交流人口の増が期待出来る</li> <li>・近い将来若い人の雇用により人口増と農業の継続的な発展を目指す</li> <li>・ふる里創生基金に拠出し、明るい村づくりに貢献する</li> <li>・単独でなくトータル的連携により相乗効果を上げる</li> </ul> <p>イメージ図</p>
---------	--